



なぜ政治家になろうと思ったの？

小さいころから世の中の仕組みや政治には興味があったけど、政治家になろうとは最近まで思っていなかった

でも、政治って、みんなから集めた税金をどう世の中のために使うか、優先順位をつけること。それを今の政治家にだけ任せていいとは思わない。



みんな10円でも100円でも安い商品を探すために時間をかけるでしょ？でも何兆円というお金が無駄使いされるかもしれないのに、政治家や官僚には、「好きに使っていいよ」っておかしいよね。私たちにどんな政治がなされているのかきちんと監視しないと。

かおりさんは政治家になって何がしたいの？何ができると思うの？

まずは1960年代に作られて、今の社会構造に合わなくなった、社会保障制度の改革。私は医薬品研究開発や医療政策の専門家として貢献できると思っている。



私はいろいろな人の代弁者でもある。母子家庭の貧困も経験したし、家族は長年介護職だったから介護の現場も詳しい。フリーランス&リモートワークで苦労したし、夕張市出身で地方都市の衰退も目の当たりにしてきた。仕事では長年中国、米国、インド企業と仕事してきたから、医薬分野では海外の事情にも詳しい。ここ20年の日本の研究開発力の低下にも、ものすごく危機感をもっている。



かぎしっぽ先生



好きなもの：

もちろん「ねこ」  
ストリートピアノ  
世界の工芸品を求める旅  
最後の旅はインドの  
グジャラート州カッチ地方



第26回参議院議員選挙  
比例代表候補

きど かおり

### プロフィール

夕張市立清水沢小学校卒  
札幌市立西岡中学校卒  
北海道札幌南高等学校卒  
北海道大学薬学部卒業、同大学院修士課程修了  
米国Simmons Graduate School of Management, 修了  
岐阜薬科大学大学院博士課程満期退学、薬学博士

大学助手、企業の研究者、商社の海外営業、ファンドの投資先調査や管理、フリーランスライター、外資系企業の事業開発、コンサル会社経営などなど

HP



Facebook



LINE



Twitter





## 国民民主党が目指す、「実質賃金を上げる」に提案！

### イノベーションを生み出す教育

- 飛び級制度の復活 & 修業年限を撤廃し、優秀な子供が望めば、より高度な教育を受けられる体制にする。
- 日本にも「ギフテッド（高IQ児）」の子供が勉強できる環境作りを。
- 大学進学一辺倒から、個人の適正を考慮した職業教育機会の充実をはかる。
- 飛び級で卒業して早くから納税者となる優秀者には、一定期間所得税や社会保障費免除、起業の場合は事業立ち上げ資金支援を行い、若くして活躍できる体制を作る。
- リカレント教育にかかわる授業料の所得控除、教育期間中の労働時間を短縮かつ、減った収入分を国が補助できるようなシステムづくりを。

米国のボストンに留学していた時、ボストン大学には「ギフテッド」のためのプログラムがあり、日本人の子供も多くいました。日本にはこうしたプログラムがなく、結局このような子供の多くは、親の経済的余裕があれば、米国で教育を受ける選択をします。逆に2E型と呼ばれるギフテッドの子供たちは、特殊な能力がありながら、日本では障害児扱いされています。海外に教育を受けに行った子供たちは、最終的に外国人になってしまうのです。飛び級では最近、元アイドルの武田久美子さんの娘さんが、19歳で大学を卒業して話題になりました。日本の教育は平均的な学力の子供を生み出すことに長けていますが、現代のイノベーションには突き抜けた能力も必要です。

### 社会保障政策

現在国民や、企業が一番負担に思っているのは税金ではなく、社会保障費です。特に非正規労働者の場合、企業の負担分がないため、同じ給与額でも健康保険料に関しては、企業の正社員の2倍以上の保険料を負担しています。大小1400近い健康保険組合が混在し、国全体として効率の悪いシステムです。また保険組合の財政難による解散が増えています。

- 健康保険制度を企業保険中心から国の一括管理にする。所属企業や保険組合の違いによる格差解消。
- 健康保険組合を統合し、業務の効率化、経費削減を図る。マイナンバーカードとリンクしてさらにIT化、効率化を進める。
- 年金を賦課方式から積立方式に変更する。人口構造の変化で、賦課方式は現役世代に負担がかかりすぎる。
- 高額な治療費を必要とする疾患の保険を一般の保険から切り離してファンドを作り、税制優遇と引き換えに、企業や富裕層、一般からの寄付を募って運営する。



### 医薬産業政策

- コロナワクチン開発で後れを取ったことを反省し、医薬品開発能力の底上げと、危機に備えた平常時の研究体制の充実をはかる。
- 医薬に限らず、科学技術分野への投資は、箱モノではなく、研究と研究人材に投資する。科学技術分野において、行政官が行う「選択と集中」による投資を撤廃。
- アカデミアでの学長を頂点とした給与体系をやめ、優秀な研究者の報酬上限の撤廃と、定年の撤廃をする。同時に教授のポジションの維持を、厳格な研究成果で評価し、国際的な競争力を高める。
- 理系ポスドク（実質フリーター）をなくす。駆け出しの研究者には安定した雇用を、それなりのポジションの研究者は業績勝負で、世界で稼げる製品を産むことでさらに経済を活性化！

新型コロナワクチンは、欧米をはじめ、ロシア、中国、インドでも2021年には市場に。日本では研究にはほとんど予算がつかず、ワクチンの製造施設により大きな予算がつけられることになりました。が、まずはそこで製造するネタを生み出すための研究開発に資金を！

似たようなことは、山中先生がノーベル賞を取られたときにもありました。iPS細胞の研究に、国から最初に大きな研究予算が付いた時、予算の大半はiPS研究所という立派な建物にほぼ消えました。山中先生に予算の権限がなく、監督官庁が担保価値計算の可能な対象ばかりに予算執行し、肝心の研究費やスタッフの給料に回らなかったのです。かくして山中先生は、マラソンで研究資金を集めることに。。。

ワクチンについては、国は長年研究開発活動への投資に後ろ向きで、国内製薬企業に研究開発リスクを負担させてきたため、ワクチン開発が十分に進みませんでした。

近年、米国はもとより、中国、台湾、シンガポールなどに流出する研究者が後を絶たしません。厳しい業績評価と引き換えではあるものの、潤沢な研究資金と、年齢にかかわらず実績を評価する体制が優秀な研究者には好ましく思われています。

比例代表投票用紙には「きど かおり」とお書きください